

第278回 番組審議会

1. 日 時 平成31年 1月15日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲西の間」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 5名 (欠席委員数 3名)

○ 出席委員 (敬称略)

砂子田 智 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

菅原 正二

高橋 博昭

八木橋 伸之

○ 会社側出席者 (5名)

小原 忍 (取締役副社長)

齋藤 秋水 (常務取締役)

高嶋 昇 (取締役営業編成局長兼東京支社長)

工藤 浩 (取締役)

工藤 哲人 (報道制作局報道部主任)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『久慈次郎生誕120年記念番組

久慈次郎、ベーブ・ルース、大谷翔平

～太平洋の橋となった野球人～』

平成30年12月1日（土）14：00～14：55

5. 議事概要

今回は、平成30年12月1日土曜日午後2時から放送した『久慈次郎生誕120年記念番組 久慈次郎、ベーブ・ルース、大谷翔平～太平洋の橋となった野球人～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道部 工藤哲人プロデューサーからの説明

・旧制盛岡中学校野球部出身で、野球界に功績を残した久慈次郎は、野球殿堂第1号の沢村栄治と並ぶ名選手であるにも関わらず全くと言っていいほど知られていない。それは何故なのだろう、こんなすごい選手を岩手の人が知らなくていいのか、そういう思いからこの番組を企画した。

・久慈は、早稲田大学、社会人野球の函館大洋倶楽部へと進み、試合中にキャッチャーの送球が頭に当たり亡くなった。そのため悲劇のヒーローというイメージがあったのかもしれない。しかし、実際は人望があって、ユーモアのある楽しい人、大酒のみで、大食いで、懐の深い人だったことが取材していて分かった。

・大谷翔平選手がメジャーリーグに挑戦してベーブ・ルースと比較されているが、ベーブ・ルースとつながる日本人が100年ほど前にいた、それをつなげない手はないと思った。大谷選手が活躍している土台は岩手の深い野球史の流れの中にあつたことを確信し信じていることができたので、広く視聴者に見てもらいたい、久慈次郎、ベーブ・ルース、大谷翔平とつなげて考えてもらいたいと思って番組を制作した。

●出席した委員からの意見

・内容がとても良く楽しく見た。

・都市対抗野球で「久慈賞」という賞があり名前は知っていた。華やかな選手

だと思っていたが、えらく遅咲きだったことに驚いた。

- ・読売巨人軍に入団してアメリカに行かず、函館復興の恩人になったというのは、やはり岩手人なのかなと感心した。

- ・久慈次郎ほどの人がほとんど知られていない。岩手県出身の大谷翔平、菊池雄星がつながって活躍している今、引っ張り出すには絶好のタイミングだった。

- ・いろいろな面で、立派な、ちゃんとした人だったということが伝わった。

- ・アテレコが、みなアナウンサーのトーンだった。映像に対してセリフのトーンが軽くなった。声優を使えば重厚感が出たような気がする。

- ・知らないことがたくさんあって、非常に面白かった。

- ・ベーブ・ルースが二刀流だったことは、日本ではあまり有名ではないし、帝国ホテルの法被など非常に面白いものがたくさん出てきて、大変ためになった。

- ・生い立ちから盛岡中学、函館の話、日米野球、ベーブ・ルース、巨人に行かなかった理由と良くまとめられていて、おもしろかった。全国で見せても恥ずかしくない内容だと思った。

- ・題名の中に「大谷翔平」という名前を入れることに違和感があった。番組の中で取り上げるのはいいと思うが、題名に入れることについては疑問を感じた。

- ・久慈次郎は、学校の先輩だが初めて知ることばかりで感心しながら見た。良い番組だった。

- ・大谷翔平をタイトルや番組の中で取り上げることについては、いろいろ意見があると思う。自分を出てこなかったらつまらない、物足りなかったかもしれないと思いながら見た。

- ・BGMが良かった。邪魔にならず、マッチしたものを選んでいた。

- ・当時の日本人が野球を通して第一次世界大戦後に存在感を大きくしていたアメリカという新興国に出逢った、その時代の空気感が伝わってきた。

・久慈次郎、ベーブ・ルース、大谷翔平と3者に焦点を当てたことでポイントがぼやけた。1本の柱を通す工夫も可能だったのではないか。

・久慈次郎は「全敗したけれど頑張れば近づける」「日本も今に勝てる」と発言している。大谷翔平の場面は、「ついにそこまで行ったのか」という意味で必要だったと思っている。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成31年1月16日(水) 産経新聞 東北版

※平成31年1月24日(土) 午前4時2分から4時5分まで「めんこいテレビ番審りレポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、平成31年2月12日(火)12時より「星雲東の間」にて開催予定です。